

令和7年度 第2回高梁市地域包括支援センター運営協議会報告

日 時 令和8年3月27日(金)

13時30分～15:00

場 所 高梁市役所3階大会議室1

- 出席者 難波委員、角銅委員、平井委員、井上委員、水谷委員、三上委員、
山下委員、仲田委員、森田委員、大隅委員(計10名)
- 欠席者 なし
- 事務局 森健康福祉部長、内岡健康福祉部次長兼健康づくり課長、斎藤福祉課長
秋森高齢者支援課長兼地域包括支援センター所長、原田係長、
赤木所長代理、江藤参事、倉橋主幹、西川主査

1. 開 会 (進行:秋森所長)

2 あいさつ(会長)

本日は令和7年度第2回目の地域包括支援センターの運営協議会です。今年度の活動報告と来年度の計画になると思います。ご協議よろしくお願いたします。今インフルエンザが流行しています。皆様、体調には十分ご注意ください。

3 協議事項

- (1) 高梁市における高齢者と介護保険の状況(原田係長)
- (2) 令和7年度高梁市地域包括支援センター事業報告
・重点的な取り組み(倉橋主幹・西川主査・江藤参)
- (3) 令和8年度高梁市地域包括支援センター運営方針(案)について
(赤木代理)

【質疑応答】

(委員)

・任期2年で色々な知識を深める事が出来ました。色々な組織が上手く機能していて、すばらしいと思いました。ただ、人口減少や高齢化という課題はエンドレスで、どうにもなら

ないことがあり、愛育委員は健康づくりのボランティアとして、住みやすい地域の人達の暮らしを守っていききたいと常々思っております。

(委員)

・多種多様な新しい取り組みを聞かせて頂いて資料も新しい取り組みに関して分かり易く様々な取り組みを発展されていて素晴らしいという印象を受けました。

・様々な取り組みの根拠をどこに持っていくのかと考えてみますと、4ページ目、2015年約10年前でいうと人口が3万2千人くらい、2017年で大体7千人の減、5年前で約4千人の減。徐々に人口減少が進んでいて、高齢化率は10年前で約38.2%、2025年で45.3%、高齢化率も上がっていて、ネガティブな要素として5ページ目で見ると、介護認定率で言えば一番高く出る事は分かる。

・認定率を見ると岡山県下でも人口が減ってきている。平成30年で20.3%、令和7年で言えば2ポイント上がっている。全国的な認定率を見ても18%こちらも全国で2ポイントくらい上がっている。但し高梁市で言えば平成30年で24.2%、一方で令和7年23.8%。人口減少でかつ高齢化率が上がってきているにも関わらず認定率は逆に減ってきている。ここは高梁市の様々な取り組みの効果、成果が出来ているのではないかと認識しました。今後も続けて地域に根付いた取り組みをぜひ発展させて認定率も歩留まりにする事によって、全国での認定率も73番目からもっと変わってくるでしょうし、岡山県内での順位も変わってくると思います。

(委員)

・ラインワークスで事業者間に差が出る、災害時にも使えるとあるが引き続き研修を行っていくのか。ラインワークスを使って利用できる新しい研修の予定はあるか。

→今年度は事業者間の活用の差が出ているので短めの研修会を開催した。今後も運用に関する研修会や、緊急時の活用について研修を行っていききたい。

・先日の島根地震の時にラインワークスが活用できた。今後は行方不明者が出た時に活用できるように試験的な運用に取り組んでいきたい。

・認知症初期集中支援チームについて、連絡会議の回数を増やした経緯は、良かった点、課題点。

→サポート医との情報交換会を始めてから、先生と事例について相談しながら支援に入れ、介入後も報告できる。連絡会を始めてから相談件数は上がったのは事実。相談が入った時に包括のスタッフ自身が「これは初期集中で入った方がいい」という判断も早くなったような気がしている。情報交換で先生方からアドバイスを頂くとスタッフが自信を持って事例に関われる安心感がある。

・早期発見ミーティングの開催はいつから？

→3年目になります。

・包括と健康づくり課はコミュニケーションを取りやすいと思うが、都市整備課や上下水道課とか福祉とか健康から離れている部門によって専門性があるから交流が図り難い部分があるのか、どういう所に課題があるのか教えて下さい。

→福祉課は生活保護の担当が参加、水道の料金や住宅家賃の滞納が重なっている人がある。市役所に来た時に健康づくり課の保健師に声がかかり、アプローチしやすくなり連携が図れる。水道課の職員が料金滞納の切り口から、認知症の方を発見し支援できた事例もある。この会議をする事によって情報共有やケースのアプローチがスムーズになってきている。

・このミーティングの主導は？

→地域包括支援センターがよびかけている

(委員)

・介護認定を受ける際に、認知症で介護認定を受ける割合はどれくらいか

→次回の運営委員会に資料で説明する

・認知症を発症する年齢はや相談は若年化しているか

→認知症のイメージからすると80代時代から、70代60代の相談も入ってきている。ペースには病気や生活習慣を起因とするものや原因不明なものもある。加齢にともなうものは高齢化率の高い高梁市では多いし、若年性の相談も増えている印象はある。認知症は相談していいという意識や、介護認定を必要なタイミングで医師や地域の方が紹介して下さるから包括に相談が早く来るようになってきているかもしれない。

・認知症の社会的問題で一番多い事は何でしょうか。社会的要因が多い為に認知症発症が低年齢化しているのか。

→地域の在り方で言うと1人暮らしの世帯や2人暮らし世帯も増えていますし、認知症が始まったとしても気付かれにくい環境はあると思います。

・認知症は近所の中でクローズアップされている。例えば地域で買い物支援のために移動販売をしても繋がらない、上手くいかない。成功している所もあるが、やめられた地域がたくさんあると聞いている。その他の要因もあるのではないか。落合で買い物支援して最初はたくさん来られたが、急に来られなくなった人に聞くと、見栄を言われる。「あの人はたくさん買った。私はあまり買わない」等、人の目をすごく気にする。この様な声は地域で必ず出てくる。

(委員)

・人生会議 ACP の話があったが、今年度は実務者向けの視察研修が行われた。人生のエンデ

ィングで伴走や支える家族や近隣の方に周知していく事が大切だと思う。来年も引き続き宜しくお願いしたい。

(委員)

・21 ページ節目の健康診断対象の方に ACP シートを送付したとあるが、どんな内容でこれをどうしていくか、奈義町の視察研修で良かった事があれば教えて下さい。

→ACP シートの内容は、1 枚目に自分が何を大切にしているかを書き、2 枚目は希望する医療やケアについて話し合いの内容を記入できるようになっています。市の HP からダウンロードできます。

→55 歳節目検診の対象の方に郵送したのは、我が事と考え、親の年齢を考えると一番効果的な年齢だと思ったからです。

→奈義町の ACP の取り組みについては、シートが高梁市のものより詳しく、普及啓発動画を作成し、YouTube で観る事ができ、ダイレクトに伝わる内容で、非常に分かり易く素晴らしいと思いました。

(委員)

・認知症サポーター養成講座を小学生や子供たちに大勢して下さっていて、子ども達が大きくなって 1 人でも 2 人でも市内で介護や医療のできる人になってもらえたらと思う。子供のころから介護や医療に興味を持ち、町内行事に参加すると、町内との付き合い方が若い人に育っていき、町内の繋がりや付き合いができてくるのではないか。独居の方でも、ご近所がとても協力的で、民生委員さん愛育委員さん、老人クラブの皆様が声をかけて誘って下さる方もあれば、昔から町内会にも参加が少なく、付き合いがなかった方は、サービス利用にもなかなか繋がりませんし、人と付き合うという事がなかなか出来ていないのが問題な所も多いと思います。若い人達にどう興味を持って頂くか、広報活動も色々工夫が必要だと思う。

認知症啓発活動が店舗や図書館、病院で行われた事で大勢の方の目に留まったと思う。市民公開講座の参加人数も 300 名以上の方が参加してすごいなと思いました。認知症啓発活動に 80 代のオレンジサポーターの方が積極的に参加され、うちの配布を一生懸命やっていた。高齢の方も役割を持って活動しようと思ってくれることがすごいなと思います。

この委員をさせて頂いて、ヘルパーの仕事とボランティアもしているが、包括も職員の方たちと顔馴染みになり、日頃の利用者の悩みを相談する事も出来て、いい経験をさせて頂きありがとうございました。これからの活動も何と繋がるか、若い人、お店の人商工会、一般企業の方なども市民全体に繋がりがあればいいと思います。認知症になりやすいのは歯周病や難聴の方がなりやすいとお聞きしました。歯科検診や耳鼻科検診等、何か出来たらいいと思います。

(委員)

・データから見て高齢率が高い。認定率が高いが、県データを見ると頑張っている印象を受ける。資料 3 ページ新要支援要介護認定者の平均年齢も高梁市は全国に比べれば 2 才高い。これらの取り組みが有効に機能しているのではないかと思います。

27 ページ総合事業、予防的取り組みを頑張る事によって高梁市には元気な高齢者がたくさんいる状況になると思っています。通所付き合いサポート事業を県内 1 番高梁市が頑張っている。高倉の通所付添いサポートの研修を見学しましたが、平均年齢 70 何歳、地域では若者なんだとおっしゃっておられ、非常に元気に頑張っておられました。そうした地域づくりをして頂けたらと思います。

(委員)

・問題が複合的な人や、本人が助けてと言えず、介入しにくい人が増えてくると思うので、今後の課題として是非意識しておいて頂いた方が良いと思います。この人と話しても大丈夫と思われる信頼関係ができるかどうか、今後取り組んで頂けたらと思います。

4. その他(事務局)

- ・高梁市ごみ出し支援サポート事業について → 来年度より全市に対象地域を広げる
- ・オレンジガーデニングプロジェクト

5. 閉会あいさつ (副会長)

今後に向けてのご協議ありがとうございました。社協でもいろいろな話を聞くが、要支援者の中にも表に出ない人がまだまだおられると思うので、何かできることを考えていく必要があると思います。今後ともよろしく願いいたします。